

ロータリー情報委員会 新井康司委員長

・ファイヤーサイドミーティングを9月6日木曜日夜を皮切りに13名ずつのグループで6週に亘り銀ちろ駅前店で行いたいと思います。終了後、懇親会を会費大体5千円で行います。次週、予定表を皆様にお渡しします。

親睦活動委員会 都志見 徹委員

・毎回ご案内していますが、9月1日(土)すさみのホテルベルヴェデーレにて行います会員家族会の出欠表を回覧します。パークゴルフ&バーベキュー&温泉と盛りだくさんの企画を予定しています。参加よろしくお願い致します。

創立60周年記念委員会

玉井洋司記念事業委員長

・田辺・弁慶映画祭のイベント8月11日の扇ヶ浜の夕べにて田辺RC創立60周年記念特別協賛として映画「ヒックとドラゴン」の上映を予定しています。たくさんの方に御覧頂きたいと思います。時間は、夜7時45分からです。宜しくお願いします。

プログラム



『熊楠と海』

関西大学人間健康学部
准教授

安田 忠典 様

《海の男熊楠》

南方熊楠(1867-1941)といえば、最近では「森」のイメージで語られることが多くなりました。熊楠は、非常に先進的でユニークな視点から明治期の神社合祀政策に対して反対運動を展開したことなどから「エコロジーの先駆者」と呼ばれ、森を守った巨人といった語られ方が、とくに21世紀に入ってから定着してきた感があります。

ですが、今日は「海の男」としての熊楠についてお話をさせていただこうと思います。西に海を臨む和歌山市に生まれ、田辺湾のほとりで没した熊楠の人生は、じつは森に佇んだ時間よりも、海を眺めた時間の方が長かったかもしれないのです。海外を放浪した時代にしても、地球の大きさを実感するような船での長旅、キーウエストからハバナへの採集旅行など、海辺で過ごした時間は少なくありません。

田辺市にある熊楠邸を訪ねると、浜辺との近さに驚くでしょう。名勝扇ヶ浜はすでに埋め立てられてしまいましたが、その名残を残す松林までは徒歩5分弱という近さです。海辺に出れば、熊楠がその保全に力を尽くした神島が左手に浮かび、その向こうには若い頃に放蕩の限りを尽くした白浜の半島が続いています。また、その景色は、波乱に満ちた熊楠の生涯のクライマックスとなった昭和天皇へのご進講の舞台でもありました。ご進講の直前には、大阪毎日新聞に「紀州田辺湾の生物」を連載してもらっています。熊楠の半生は、常に潮風の香りとともにあったといっても過言ではないのです。

《紀南の海をめぐる》

皆様には、写真をご覧いただきながらお話を進めたいと思います。まずはこの採集スタイルで写った写真です。これは明治35(1902)年の9月に、悪友たちと3人組で採集旅行に行った時の写真ですが、じつは田辺に戻ってきてから、そこの池田写真館で撮ったものです。いかにも森に行ってきたぞといういでたちですが、この時に訪れたのは海岸沿いの椿温泉でした。当時、熊楠は藻類を集めていたのです。椿では、源泉の周囲に生じる藻を探していたようです。

椿の他にも、田辺へ長逗留して遊んでいた頃(明治35年前後)に、熊楠は紀伊半島の海岸部を一通り調査しています。まず赴いたのが勝浦です。ここも海岸に湧く温泉で有名ですね。そして、勝浦への途上、串本や古座でも調査します。古座の九龍島、串本の橋杭岩、潮岬、通夜島、そして苗我島にも上陸しています。

もっとも身近だったのはやはり田辺湾周辺で、お気に入りのリゾート地だった白浜温泉、当時の鉛山温泉にも、何度となく訪れています。その他、田辺湾周辺の海島にも、小舟を仕立てて出向いています。神島はもちろんですが、四双島や塔島といった磯にも上がっているのです。

こうして具体例をみるだけでも、熊楠が、いかに海が好きだったか、あるいは熊楠の研究と海が関連していたのかがご理解いただけるかと思います。

《新たな熊楠像を》

さて、こうしてことさらに「海の男熊楠」についてお話をさせていただくには、もちろん理由があります。それは熊楠研究の次のステップを見据えてのことなのです。「森」や「エコ」のイメージで語られるようになったということは、熊楠は環境活動の先駆者として定着してきたということです。

確かに、熊楠の仕事には、環境問題への強いメッセージが含まれていますので、この田辺市が位置する紀伊半島南部を、例えば「環境先進地」とか「エコロジーのメッカ」のようにアピールする際のアイコンとして、熊楠は非常に有効です。学術研究が、町づくりとも連携していける可能性を探っていきたいのです。

そこで熊楠の持っている、もうひとつの、そしてある意味では最大の魅力を、次の段階として地域の皆様にお伝えしていきたいと考えています。それが、今回の「海」や、以前にお話しさせていただいた「温泉」などの、レジャーやリゾートとも繋がるある種の「解放感」です。熊楠の学問には、彼がアマチュアの学者であったことなどからくる、独特の「解放感」があります。専門化、タコソボ化していく現代科学の閉塞感とは逆のベクトルを持っているのです。

その大らかで開放的な学風を、「森」や「エコ」に加えることで、この田辺という町の魅力を発信するキャラクターとして、さらに熊楠は成長するはずですが、皆様方におかれましては、これまでも熊楠研究に対して多大なご支援を賜っておりますが、どうかこれからも、町の財産として、熊楠をご支援いただけますようお願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

